

「表現の不自由展・その後」の中止撤回と展示の再開を強く求めます

あいちトリエンナーレ2019で「表現の不自由展・その後」が3日で実行委員長である大村秀章愛知県知事と津田大介芸術監督によって中止を宣言される事態が発生しました。展示場の閉鎖は表現の自由をふさぐ壁であり、日本社会の極右勢力を守る壁です。壁を取り除き「表現の不自由展・その後」の中止を撤回し、展示を再開することを強く求めます。

私をはじめとする展示に参加したアーティストは、8月3日にメディアが展示中止の報道を流すまで、私の知る限り誰一人として主催者あいちトリエンナーレ2019大村実行委員長、津田大介芸術監督から展示中止についての話し合いもありませんでしたし、連絡を受けてもおりません。3日夕方の報道を受けて、4日朝10時に急いで展示場に駆け付けたときには「表現の不自由展・その後」の展示場の入り口は高い壁でふさがれ、誰も入ることができませんでした。入り口には展示が中止となったという案内板が立てられているだけで、中止の理由については何の説明も書かれていませんでした。

「表現の不自由展・その後」はそもそも津田大介監督から、公立の美術館で検閲を受けた作品を展示する「表現の不自由展」のコンセプトはそのままに、2015年以降の事例も加えて、それらを公立の美術館で再展示する、表現の自由を巡る状況に思いを馳せ、議論のきっかけにしたいという趣旨の企画として、キュレーションを不自由展実行委員会に任されたものだと思っています。

ところが、「表現の不自由展・その後」の中止は政治の検閲による表現の不自由の存在を世間へ見せつけるパフォーマンスになってしまいました。日本社会が抱える恥部を隠そうとして、むしろ日本の歴史にもう一つの恥部を作ったのです。

8月2日、菅義偉官房長官は、記者会見で「補助金交付の決定にあたっては、事実関係を

確認、精査して適切に対応したい」と発言しました。河村たかし名古屋市長は展示場を訪れ「どう考えても日本人の心を踏みにじるものだ。即刻中止していただきたい」と発言し、大村県知事に展示中止の要請書を送るなど、憲法21条で禁止されている検閲にあたる行為をしました。

翌3日、大村県知事は記者会見で展示中止を発表しました。展示中止を決定した重要な理由として「ガソリン缶を持っておじゃまする」というファックスが届いたことを挙げています。職員と観覧客の安全のために展示を中止するしかなかったと発表しました。

万一、テロの脅迫があったのであれば警察に届け、犯人を捕まえることが正常な行為ですが、犯人を捕まえるための日本の公権力はすぐに動きませんでした。むしろ、正当に行われていた展示を中止させることで事態を収めようとした。これは主催者側が脅迫犯の意見を受け入れたとしか考えられません。展示中止の決定まで右翼の脅迫に対しいかなる十分な安全対策を講じたのか問わざるを得ません。

日本で論争になっている天皇、安倍首相、憲法9条、日本軍「慰安婦」、福島、人種差別などが展示されている「表現の不自由展・その後」はアーティストたちにとって作品を発表するための表現の場です。展示場はアーティストだけの空間ではありません。アーティストの作品と、受け手である観客の疎通の空間です。このようなコミュニケーションが権力や知られざる理由で中止されたとしたら、アーティストと受け手の両方が被害にあったということになります。また、人間の知る権利を侵害することでもあります。表現の場としての空間を奪うことは展示を鑑賞したいと願う人々にたいしても表現の自由を侵害することなのです。

2012年6月、ニコンサロンでの<重重 中国に残された朝鮮人元日本軍「慰安婦」の女性たち>写真展が中止された後、仮処分判決を通じ展示を再開させましたが、ニコン側の展示の進め方が不当であったことに関し、裁判で3年間闘いました。裁判を通じ、ニコンの中止

決定が不当であったことと、ニコンサロンは私企業が所有する施設ではあるものの公的な場所と同様に疎通としての表現の場を守らなくてはならないという判決を勝ち取りました。

愛知県のような公的な組織が文化芸術に対して支援する理由は民主主義に基づく憲法の精神と表現の多様性を保障するためです。右翼の脅迫や政治家の検閲によって展示が中止、撤去されてはいけません。展示された作品を市民自らが鑑賞し判断する権利が守られなければなりません。表現の不自由を象徴する壁を取り除き、**あいちトリエンナーレ2019「表現の不自由展・その後」**の再開をし、表現の場を市民たちに返してもらえるように求めます。

このステートメントは公開するとともに、8月18日までに「表現の不自由展・その後」を塞ぐ壁に貼り出すことを求めます。

2019年8月15日

あいちトリエンナーレ実行委員会

大村 秀章 会長 様

津田大介監督 様

あいちトリエンナーレ2019「表現の不自由展・その後」参加アーティスト 安世鴻